

は泥沼化し、その為、戦線に送られる若者の増加による労働力不足、また、軍需のために国内の物資も次第に不足し、米、衣料は配給制となった。

さらに米国による石油、鉄の禁輸・ABCD 包囲陣により日本を窮地に陥った。そして昭和 16 年 12 月 8 日、真珠湾攻撃によりさらに戦線は拡大していった。

緒戦の戦果はめざましく、翌年 2 月にはシンガポール陥落と、国民は大勝利のニュースに沸いた。しかしながら、この年六月、ハワイ近くのミッドウェー攻撃に向かった連合艦隊は米軍艦隊により大損害を被った。米空母一隻撃沈しただけで、わが方は、主力空母 4 隻、飛行機全 200 機を喪失、海軍は熟練飛行士の大半を失った。この戦勝にチャーチルは米軍に祝電を送っている。一方、日本国民にはこの敗北は知らされず、国内には戦勝気分になだ酔うていた。

こうした国内情勢のなかで、「よく噛む運動」を提唱した日本歯科評論社の先見性に敬意を表したい。

当時の月刊誌五種を検討したところ、脚気の薬品の広告がよく見られ、当時は未だ白米中心の食生活であったことがわかる。

11) 8. 9. 長崎の原爆投下時における歯科学生たち

Dental students in Nagasaki at the time of atomic bomb frowning down

北九州市 上瀉口 武

Takeshi Kamigatakuchi, Kitakyushu City

その 1 1945 年 8 月 9 日

その日、私たち三年（福岡県立医学歯学専門学校歯学科）は期末試験中だった。空襲警報が出ていて講堂前の有蓋防空壕に入っていた。米軍資料「原爆投下報告書」東方出版によると、米陸軍戦略飛行団、第 509 混成群団の小倉陸軍造兵廠爆撃を命ぜられた B-29、「ボックスカー」の 3 機編隊は、8 月 9 日未明テニアン北飛行場を離陸し小倉の上空にいた、つまり原爆投下第一目標は小倉陸軍造兵廠であった。

この地区の雲量は 10 で断続雲に覆われ、爆撃手

は命令の目視爆撃航程を 3 回試みたが発見できなかった。目標は some haze and heavy smok, あるいは heavy grand haze and smok, と記載があった。奇しくもこの前日 8 日、戦爆三百数十機による八幡爆撃の煙霧が立ち込めていたためといわれるが、この時小倉上空で投下されていたら、造兵廠から 1.5 km 位の距離にある母校の、有蓋といっても前年から私たち学生が造った素掘りの壕の上に掘った土を被せただけの壕では、生存率を考えることは出来ないほどの距離しかなかった。

この B-29 の小倉上空通過については、今日広く知られているし、造兵廠跡の勝山公園内に「長崎の鐘」がメモリアルとして建てられ、ひっそりと千羽鶴が飾ってあるのを見ることができる。

壕の中でいい加減待避に飽いていたところ、「長崎市民総退避せよ！」とのアナウンスを聞き、前日の八幡空襲の爆撃を望見したのに較べて、僅か数機の空襲にしては大袈裟なという思いだった。ところが広島を通ってきた学生がいて、被害の比較にならない話に一変に驚き、長崎出身の私たちはすぐ帰省を申し出た。教務課では今から帰っても恐らく駄目だらうから、受験を済ませて帰るようにとのことで、残りの課目を終え二日目、11 日の夜、始発の門司港駅から長崎行夜行に乗車した

長崎市出身の県立 3 回生の被爆ノート

(爆心地よりの距離は原爆資料図による)

○ 菅原（佐伯）玄道（北九州市在住）

自宅：長崎市浜口町 301 番地、爆心地より 500 m
家屋全壊、全焼、

父 威四郎、母 園子はじめ一家七人死亡

兄 三道 出征中で無事、娘恵子（仮名）助かる

○ 本田光徳（大阪市開業）

自宅：長崎市浜口町 48 番地、爆心地より 500 m
家屋全壊、全焼、

父 市中に勤務（松栄堂）のため助かる。

母 死亡、弟 13 才 19 日避難先で死亡。

○ 高田 茂（福岡市開業）

自宅：長崎市岩川町 4-40 番地、爆心地より 1 km
家屋全壊、全焼、

両親、当日疎開先の佐賀市より帰宅被爆死亡、

○ 立野房義（福山市開業）

自宅：長崎市大黒町 57 番地、爆心地より 2.5 km

家屋全壊、全焼、長崎駅前

父 在宅中無事、母 弟妹と佐賀市に疎開中
次男は佐賀で勤労奉仕中爆撃により爆死

○ 上瀉口武（北九州市開業）

自宅：長崎市酒屋町 17 番地、爆心地より 3.5 km

家屋半壊、電車通り向かい側まで凡て焼失。

父母妹、共に無事、

○ 徳永純一（死亡 北九州市）

自宅：長崎市南山手通り、爆心地より 4 km 以上

家屋小破

両親家族共に無事、本人当時休学中で在宅無事。

米軍上陸後、通訳をする

○ 高見秀明（長崎市在住）

自宅：長崎市戸町 2 丁目、爆心地より 4 km 以上

爆心地より地形的に遠く殆ど被害なし、戦
後中途退学をした。

これらの学生のその間の消息について、幾つか
の出来事を私験的に述べてみたい。

その 2

12 日早朝、夜行列車乗客は長崎の三つ手前の長
与駅で下車させられるトラブルがあり、再乗車し
たがわたし達はばらばらになった。菅原は道の尾
駅で下車したが、その惨状に声がなかったという。

浦上駅の右手の製鋼所の焼けた鉄骨の間から赤
黒い炎が音もなく間欠的に吹き上げていた。長崎
駅前には沢山の異様な負傷者がひしめいて水をも
とめる姿があった。見渡す正面の岡は一面の焼け
跡だった。県庁通りの岡をあがると焼け跡の電車
通りの正面にわが家がみえた。

帰宅してすぐ、父の勤務先（九電工）の従業員
を長崎医大の工事現場に捜しに行くのに追って行っ
た。8 月 1 日の空襲で医大の機能がやられ、緊急工
事の最中に 15 名全員が被爆とのことであった。

医大裏山一带、山王神社の片足鳥居付近を捜し、
入り口に死骸の折重なった医大救護所のなかで、
ショックで失語の若い工員を父が見つけた。また
二列に並べられた多くの動員の女子生徒を見た。

13 日、中学の後輩岩山が医大で授業中被爆、東
小島の自宅に帰っているのを看護した。背中一面
の火傷とガラス、歯科用ピンセットで取れるだけ
のガラスを取る以外は赤チンのみ、間欠的に悪寒
発熱、暴れを繰り返して家人の手に余り次第に病

状悪化、14 日夜は泊まり込む。この間、高熱の本
田の弟を避難先に見舞い、また菅原と会う。

15 日、朝方病状改まり、家人を起こし臨終を迎
える。その後玉音放送を聞く、雑音甚だしく初め
対ソ宣戦布告かと迷う。家を辞去して街にでると、
和平デマ放送に騙されるなどの貼紙を見る。

その夜、磨屋小学校の救護所に知人を見舞う、
一緒にいた立野が菅原の恵子を発見した。名札に
は氏名不詳、骨折とあり、本人はくりくりした眼
をしていたが話せなかった。後日分かったが被爆
翌日、近郊からきた消防団が子供の泣き声を聞き
救出し、磨屋小に収容されたことだった。

16 日、敗戦により暗黒の焦土の復興第一歩とし
て、永野若松知事は小川敬二九州配電長崎支店長
と速やかな街の点灯照明を諮り、支店長の子息小
川兄弟、社員関係者の子息、いずれも学生らを集
めた編成に参加し、崩壊した浦上変電所から資材
を輜重車に積み、約 6 km 離れた活水女専下の倉
庫まで運び、爆心地を何度も往復した。社員の復
員とともに工事が進み暗黒の街に電灯が点いた。

9 月初頃、一度立野とともに出校。

9 月 14 日、原爆調査団到着。（長崎市史年表）

9 月 23 日、ハント少将旗下海兵 2 師団 2 万 5 千
名、空母艦艇 20 余隻、敵前上陸のまま完全武装で
上陸。（長崎新聞写真入り）

これを見た徳永の話、2 時間で上陸はすんだ。

この頃、菅原兄弟と浜口町の自宅防空壕を探す。
前回に比べ荒らされており、父親の長崎医専時代
の講義ノートを見る、右詰筆の縦書きでドイツ語
も達筆で書いてあった。壕の少し離れたところに
兄夫人、一部白骨化した死骸を見つけた。兄が自
分で装着した前歯架工義歯で分かったが、背後に
米兵のブルトナーが迫ってきたので、歯だけ抜
いて逃げ、死骸は収容出来なかった。

この後、徳永宅をたびたび訪れる。

学業再開後、高田と卒業まで一緒に自炊した。